

生涯学習
レター

全国生涯学習市町村協議会

2010年3月31日

全国生涯学習市町村協議会
ホームページアドレス <http://www.gakushu.jp>事務局
〒327-0595
佐野市葛生東1-11-10
佐野市教育委員会生涯学習部生涯学習課
TEL 0283-86-3495
FAX 0283-85-3039

北海道本別町にて開催

『北日本生涯学習
まちづくりフォーラム』

(平成21年11月28日・29日)

今年度は、平成21年11月28日・29日に、「田舎が輝くまちづくり ひとが動く まちが変わる」をテーマに、北海道本別町にて「北日本生涯学習まちづくりフォーラム」を開催しました。

開会式では、ご来賓の文部科学省生涯学習政策局様よりご挨拶をいただいた後、聖徳大学 福留強教授から「田舎が輝くまちづくりの全国的な事例を学ぶ」と題しまして、事例紹介をいただきました。

鹿児島県志布志市の市民大学の皆さんが開発した「創年の志」と銘打った焼酎や、近くの霧島市隼人町の嘉例川駅のまちおこしやそこで販売されている駅弁「かれい川」など、今までの常識を破ったような事例を次々に紹介していただきました。

続いて「田舎力 地域に眠る宝を探し発信する」とのテーマで、環境ジャーナリスト・食総合プロデューサーの金丸弘美氏より、基調講演をいただきました。都会のものまねでない村がカッコ良く、村が村らしく、村が元気で若い人が来て、働き場があって、そんな村の誇りを発信できる場を作っていくことが大切ではな

いかと結んでおられました。

本別町特産の小豆と大豆で作ったお茶でしばしの休憩の後、対談に入りました。

「田舎を創るひとを育てる」をテーマに、阿寒鶴雅グループ代表の大西雅之氏とふるさと再生塾塾長小山忠弘氏のお二人が、「ふるさと」の曲が流れる中、舞台上に登壇されました。大西氏は、国土交通省所管の観光カリスマに選定され、ソムリエとしても活躍。また現在グループ7つのホテルを経営されながら、阿寒観光協会まちづくり推進機構理事長として「阿寒湖再生プラン2010」を策定するなど、具体的な人づくりに取り組んでおられます。小山氏は、道内各地で教育長を務められた後、平成20年に札幌国際大学学長を退かれ、「ふるさと再生塾」を創設されました。このお二人の対談は、「田舎をつくる」ということは、田舎力・過疎力・郷土力を育むことであり、そのためには人材の育成を官民協働で取り組むことが不可欠であり、多様な交流により共創力がつき、田舎の活性化へと結びついていくと述べていました。

パネルディスカッション

生涯学習によるまちづくりを検証する

コーディネーターは、ふるさと再生塾塾長小山忠弘氏、パネリストは、阿寒鶴雅グループ代表 大西雅之氏、聖徳大学教授 福留強氏、本別町総合計画策定審議会 会長 今野公司氏、本別町長 高橋正夫氏の4名。熱意のあふれる討議が行われ、高橋正夫町長の「まさに協働のまちづくり、自分たちが変われば、自分たちが頑張れば、町が元気になるのだと実感した」との言葉で締めくくられました。

地元本別町を始め、北海道各地、また全国より多くの会員の皆様にご参加いただき、大変有意義なフォーラムを開催する事が出来ました。心より感謝申し上げます。



■これからの生涯学習への展望

文部科学省 生涯学習政策局長 板東 久美子

臨時教育審議会が、だれでもいつでも学ぶことができ、学んだ成果を活かすことのできる「生涯学習社会」の実現を提言してから四半世紀、また、その実現のため、都道府県の生涯学習推進体制の整備などを求めた「生涯学習の振興のための施策の推進体制の整備に関する法律」(略して生涯学習振興法)が制定されてから20年になります。この法律は、生涯学習の定義や理念も規定しておらず、生涯学習についての基本法ではありませんが、生涯学習を全国的に、そして様々な分野で推進していく出発点となりました。そして、平成18年に教育基本法が改正されて、ようやく、教育を貫く重要な理念として、「生涯学習の理念」が明定されました。

生涯学習の必要性は、少子高齢化・人口減少、産業や雇用構造の変化、グローバル化、地域や家庭の機能低下などの社会経済の大きな変化が進行する中、ますます重要なものとなっています。しかし、残念ながら、生涯学習社会の実現の状況は道半ばと言わざるを得ません。まだ生涯学習という言葉は限られたイメージで捉えられることも多く、趣味・教養に関わるものに比べ、職業能力の開発・向上や地域・社会の課題の解決に資する学習機会は十分とはいえません。また、諸外国に比べ、大学・大学院

で学ぶ社会人は少なく、高度な学習を市民が享受できる機会は不十分です。学びの成果の積極的な評価・活用も、まだ限定的なものにとどまっています。

このような中、平成22年6月18日に閣議決定された「新成長戦略」では、市民・NPO・企業など様々な主体が社会問題の解決に関わる「新しい公共」の実現が盛り込まれました。この「新しい公共」と生涯学習には極めて密接な関係があります。例えば、誰もが「新しい公共」に参画し、協働していくためには、学び直しの機会の充実や学びの成果が適切に評価されることが求められており、その役割は、大学・大学院や社会教育施設等が担っていくこととなります。特に、社会教育施設は全国の豊富な施設・専門人材を生かし、「新しい公共」を担う人々の連携・情報共有・人材育成の中核として、その機能を果たしていくことが考えられます。今、改めて、生涯学習の視点を、教育だけでなく、産業、労働、福祉、地域活性化など様々な分野に横串で通していく必要があるといえましょう。

生涯学習振興法制定から20年という節目を、生涯学習の意義を再認識し、生涯学習推進の課題を検証し、次のステップを力強く踏み出す契機にしたいと強く願っております。

平成21年度 全国生涯学習市町村協議会

後援事業

山形県 天童市

天童市生涯学習フェスティバル2009

(第50回天童市公民館大会・第5回天童市地域づくり研究大会)

生涯学習を進め いきいきとした地域社会をつくろう
(私の一歩が地域を変える)

第50回天童市公民館大会

第5回天童市地域づくり研究大会

記念講演

『私の一歩が地域を変える』感動・感謝
『生きる』って素晴らしい!』

講師 俳優・明治大学特別招聘教授

原田大二郎氏

期日 平成21年11月21日(土)

場所 天童市市民プラザ

主催 天童市・天童市教育委員会

主管 天童市生涯学習フェスティバル実行委員会

協賛事業

9月13日(日)

市民プラザ「黒森歌舞伎天童公演」

9月27日(日)

ほんばこ里山コンサート

10月18日(日)～10月31日(土)

市立図書館市内出版物展

10月24日(土)～11月8日(日)

市立公民館フェスティバル・文化祭

11月14日(土)

遊びの屋台村(天童版だがしや楽校)

福島県 須賀川市

平成21年度
須賀川市民大学

須賀川市民大学概要

一人ひとりの市民が創造的で充実した人生をおくるとともに、地域づくりや地域文化の創造への主体的な参加を促進できるよう、生活や地域の課題に対応できる学習と自己啓発の場を提供する。また、このことにより「豊かな人づくりと活力あるまちづくり」を促進する。

第一回 9月16日

「万葉集千二百年紀」万葉秀歌 心に響く「愛」の歌

第二回 9月30日

「世界の食糧事業と日本の食糧自給率」福島県農政事務所地域第四課長 藤澤好尚氏

第三回 10月7日

「笑いとコミュニケーション」

第四回 10月14日

「文明の帰路に立つ世界と日本」毎日新聞社特別編集委員 岸井成格氏

第五回 10月21日

「私の取材手帳から」私が出会った素敵な人たち」

キャスター・エッセイスト 福島敦子氏

会場 須賀川市中央公民館

埼玉県 春日部市

かすかべ遊学フェスティバル2009
生涯学習の祭典 遊びながら
ときめき発見 知る・観る・学びの広場 春日部

第21回全国生涯学習フェスティバル協賛事業として、春日部市社会教育課で主催する事業を実施し、春日部市内で平成21年10月～平成21年12月に開催される生涯学習のイベントをポスター・パンフレット・ホームページなどを使って広報した。

遊学一日体験教室（参加人数二七三名）

春日部市生涯学習人材情報登録者を講師として、28の体験教室を実施

ビデオフェスティバル（参加人数一〇五名）

「学校の部」と「市民の部」の部門に分け募集したビデオ作品の発表会を実施
市民アカデミー（参加人数二二四名）

①春日部市生涯学習都市宣言発表セレモニー

市民による宣言文の朗読

②人権ポスター入選作品発表

市立小中学校並びに春日部特別支援学校児童・生徒の作品映像をスクリーンに投影し、学校名・学年・氏名を紹介

③人権作文発表及び表彰

児童二名、生徒二名の作文発表後、表彰及び講評を行った

④教育講演会

演題「脳を活かすマナビ術

「生命輝かせるために」
脳科学者 茂木健一郎氏

埼玉県 松伏町

第21回全国生涯学習フェスティバル
まなびピア埼玉2009 in 松伏町事業

▽記念講演「創年よ大志をいだけ」

聖徳大学 教授 福留強氏

▽アトラクション「創年コンサート」

（出演）ニューノーツ・オーケストラ

▽生涯学習体験ステージ

①文化・経験発揮ゾーン②スポーツゾーン③創年の広場④農産物直売コーナー

主催 松伏町文化のまちづくり実行委員会
主管 文化のまちづくり「You遊」

後援 倶楽部・創年祭運営委員会

松伏町、松伏町教育委員会、聖徳
大学生涯学習研究所、NPO法人

協力 全国生涯学習まちづくり協会

文化協会、体育協会、レクリエー
ション協会、国際交流協会、その
ほか創年祭の目的に賛同する団体



山梨県 山梨市

子どもをほめて 育てる研究会

in 山梨市

地域の宝である子どもが健やかに成長するためにはどのようなすればよいのか、講演会やポスターセッション、シンポジウムを通して、子どもたちの健全育成を考える機会とした。また、懇親会を通じて多くの実践者との交流を図った。

期 日 平成21年11月23日（月・祝）

場 所 山梨市民会館

基調講演 「子どもを健全に育てるまち」

～子ども運動の現状と課題～

聖徳大学教授・全国子どもをほめよう研究会代表 福留 強氏

ポスターセッション

解説「子ほめ条例のまち」

聖徳大学教授 清水英夫氏

シンポジウム

「地域で育つ大人と子ども」

コーディネーター

恵泉学園学園長 松下俱子氏

まちづくりコーディネーター 広崎典子氏

松本大学人間健康学部講師 二宮 至氏

元巨人軍選手

山梨市長 中村照人氏

山梨市加納岩小PTA・前子育てクラブ会長 古屋明子氏

栃木県下野市教育長 古口紀夫氏

主催 山梨市、山梨市教育委員会、山梨市子どもをほめて育てる研究会 in 山梨実行委員会

共催 NPO法人全国生涯学習まちづくり協会、全国子どもをほめよう研究会、山梨市子どもクラブ指導者連絡協議会、山梨市PTA連絡協

主 催

会 in 山梨実行委員会

岩手県 軽米町

協働・参画による 生涯学習まちづくり in かるまい

子どもをほめて育てよう研究大会 in かるまい

（平成21年度 軽米町教育振興運動集約集会）

期 日 平成22年2月5日（金）

場 所 軽米町農村環境改善センター

子どもが健やかに成長するためには、家庭や地域の大人が子どものよさを見だし、温かく見守ることが大切です。何よりも大人が子どもをしっかり見つめ「ほめよう」という心でいることにより、朗らかで心豊かな人生を送ることができ

るのです。

この大会は、学校・家庭・地域（各団体）が連携を図り「子ほめ運動」の推進をはじめ、子どもたちの健全育成を考えようとするものです。

II オープニング・実践発表 II

晴高小学校「郷土芸能伝承『高家えんぶり』」

山内小学校「はつらつあいさつプロジェクト」

晴山小学校「家庭学習の定着化運動」

議会、山梨市老人クラブ連合会、全国生涯学習市町村協議会、山梨県生涯学習まちづくり研究会、聖徳大学生涯学習研究所

後 援 山梨県教育委員会、NHK甲府放送局、山梨日日新聞社、山梨放送、(株)テレビ山梨

後 援

山梨県教育委員会、NHK甲府放送局、山梨日日新聞社、山梨放送、(株)テレビ山梨

II 開会行事 II

基調講話「子どもをほめて育てよう」

全国生涯学習まちづくり協会理事長 福留 強氏

シンポジウム

「学校、家庭、地域連携による子育て運動」

▽コーディネーター

青山学院大学非常勤講師 小川誠子氏

▽総括アドバイザー

聖徳大学教授 福留 強氏

▽パネラー

山形県鶴岡市上郷地区自治振興会

副会長 五十嵐進氏

「地域の子どもは地域のみんなで育む」

福島県矢祭町矢祭もつたない図書館

館長 金澤 昭氏

「全国の皆さまの善意によって出来た45万冊の図書を所有する小さな町の大きな図書館もつたない図書館と読書の街づくり推進」

軽米町体育協会 会長 日山 篤氏

酪農経営・前軽米町立笹渡小中学校PTA会長 田中 祐典氏

交歓交流

「郷土食で、わがまち自慢を語ろう会」平成21年度軽米町PTA連合会懇親会

東北地区生涯学習まちづくり 研修懇談会

期 日 平成22年2月6日（土）

場 所 軽米中央公民館

II 開会行事 II

基調講話

「生涯学習によるまちづくりの手法」

全国生涯学習まちづくり協会理事長 福留 強氏

事例研究

「市町村における生涯学習まちづくりの成果と課題」

山形県高島町教育委員会教育総務課 山木義昭氏

青森県黒石市企画財政部企画課（まちづくり推進） 駒井昭雄氏

青森県階上町総務課（広報担当） 田中靖子氏

青森県五戸町まちづくりグループ Five Door 代表 赤坂喜美氏

第8回軽米町民生涯学習フェスティバル

期 日 平成22年2月7日（日）

場 所 軽米町農村環境改善センター

住民の手による生涯学習フェスティバルを開催。

歌や踊り、演劇など、24団体がステージに出演し、発表を行った。

「生涯教育の町宣言」 30周年記念大会

「入づくりまちづくりを求めて30年」開催される

岩手県金ケ崎町が昭和54年6月25日に「生涯教育の町」宣言をしてから30年になりました。これを記念して、平成21年10月17日(土)・18日(日)、金ケ崎町文化体育館を主会場に、「生涯教育の町宣言」30周年記念大会が開催されました。

テーマは「生涯教育、協働と自立へのまちづくり」。「地域住民による地域づくり実践発表」6名のパネラーによる「協働によるまちづくりを考える会議」、元NHKアナウンサー 加賀美幸子氏による記念講演「いきいき生きる～言葉の力、言葉の心」、食文化を発信する「おらほのうんめえ井戸端会議」など盛りだくさんの内容でした。



記念講演

「いきいき生きる～言葉の力、言葉の心」

加賀美幸子氏(元NHKアナウンサー)



協働によるまちづくりを考える会議

テーマ: これも協働、これぞ協働 これからのまちづくりに垣根はいらない!

結果報告

今後の生涯学習施策に関するアンケート調査を行いました

対象団体 全国生涯学習市町村協議会役員(22団体)
回答団体 14団体
実施時期 平成22年2月

① 全国生涯学習市町村協議会のあり方について

① 財政上の問題により全国規模のフォーラム等の開催が難しくなっていることに対する意見

- ・開催は困難、廃止はやむを得ない 9団体
- ・毎年度は必要ない、隔年開催など 3団体
- ・開催できないのなら退会を検討 1団体
- ・世話人と相談の上、事務局で検討 1団体

② 退会市町村増加の対応策

- ・プラス面を全面的に打ち出し、新規加入市町村を募る
- ・魅力のある事業を展開し、加入メリットを明確にする
- (具体策)
- ・協議会の補助金が活用できるメリットを周知する
- ・「NPO活動推進ネットワーク」など活発に組織が機能している事例を参考にする
- ・研修会補助金を縮小し、加入市町村間の視察研修を行う
- ・未加入団体へ声かけし、首長に「生涯学習まちづくり」を訴える

② 生涯学習施策について

① 現在の地域課題、困っている点

- ・市民、職員の生涯学習に対する認識が



深まっているとはいえないため、計画に基づき積極的、効果的に推進を図る必要がある

- ・市民活動団体の連携強化や情報を共有できるシステムの構築が必要である
- ・養成講座等を開いても、いつも同じ60～70代のメンバーであり、次代を担う若い世代（人材）がいない
- ・市町合併により、地域の施設使用、生涯学習予算等の格差が続いている
- ・地域ボランティアの高齢化が進み、新たなボランティア人材を発掘できない
- ・国、県からの情報が極端に少ないため、公民館活動を生涯学習のどのような位置づけにしていくか事務的な整理が必要
- ・市民協働によるまちづくりを推進しているが、自治組織運営をいかに新たな自治組織として創造していくのか
- ・これまでの社会教育関連施設を地域の活動拠点としていく場合、中心となる人材や社会教育は確保できるのか
- ・生涯学習の所管を市長部局としているため、推進するまちづくりへの関わり



りや目的が分かりにくくなっているため、望ましいあり方を検討したい

- ・地域の指導者に関する「人材情報登録制度」をホームページに掲載しているが、登録者が減っているため、学んだことを活かす仕組みづくりが困難となっている
 - ・生涯学習の環境整備に努めているが、過疎化、高齢化により、市民のニーズがつかみにくくなっている
 - ・外国籍住民が増加し、日本語を学ぶニーズが高まっているが、多言語で情報発信する対応ができていない
 - ・地域コミュニティ組織である町会自治会への加入率が年々低下している。地域住民相互の連携・協力が不可欠となってきた
 - ・まちづくりリーダーの養成、学習成果の活用、少子高齢化への対応
- ② 国に求める支援策
- ・生涯学習の積極的な普及・啓発や情報発信（4団体）
 - ・省庁間の連携により、あらゆる省庁に『学びの必要性』を徹底してほしい
 - ・あまり規制のない補助金制度
 - ・生涯学習施設の建設費補助を大幅に拡大してほしい
 - ・生涯学習事業の情報提供
 - ・講師の力量を持った市民を、公的な講師として養成していただける施策の展開

・生涯学習関係者等の人材育成研修にかかわる支援

- ・成果を正当に評価する認証システムの構築支援
- ・家庭教育、文化芸術、スポーツ、各種講座等における一流の指導者の派遣等の支援
- ・財政的な支援
- ・支援要請のない団体は14団体の2団体



③ 今後伸ばしたい地域の個性・特徴

- ・生涯学習宣言都市であるため、生涯にわたって学ぶことの大切さやその成果を地域で生かすまちづくり
- ・平均寿命の延びにより、定年後働ける方々を活用することで地域を活性化させる
- ・「食育」、「子育て支援」、「安心・安全のまちづくり」、「子どもの居場所づくり」など家庭・学校・地域が一体となった取り組みの強化
- ・外国との市民レベルでの交流の推進
- ・地域固有の文化や歴史を学び、ふるさとに対する誇りや愛着を育む地域学の推進

・積極的な環境保全や環境負荷の低減を図る「人と地球環境にやさしいまちづくり」の推進

- ・「人」を中心に据えたまちづくりの推進
- ・伝統芸能等の伝承
- ・旧市町の違う個性を地域の宝と位置づけ伸ばしていきたい
- ・次代の主役である子どもたちに地域の行事への参加ができる様々な事業を展開していきたい

・「子ども読書推進計画」による「家庭での読書」の推進

・地域の公民館の様々な活動がより活性化し、特色ある事業が展開されているため、その情報を全国に発信する

・地域にある大学や研究機関等の知的資源のさらなる活用

・郷土への愛着とまちづくりに関する高い知識と能力を持つ多くの市民活動団体及び市と団体との橋渡しを担っている中間組織

・「文教の里」、「豊かな自然」という個性、特徴を生かした「自然と親しむ」、「言語の教えを活用した」教育の実践

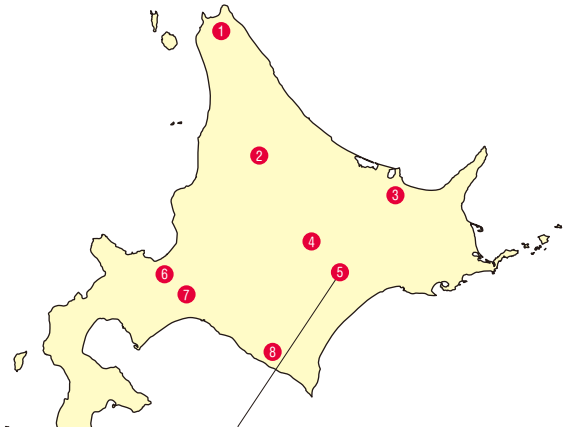
ご協力いただき
ありがとうございました。



平成22年度

会員市町村

北海道	関東	中部	近畿
1 稚内市 2 士別市 3 大空町 4 上士幌町 5 本別町 6 札幌市 7 千歳市 8 浦河町	【栃木県】 24 大田原市 25 矢板市 26 さくら市 27 宇都宮市 28 栃木市 29 佐野市 【群馬県】 30 高崎市 【埼玉県】 31 東松山市 32 川島町 33 所沢市 34 春日部市 35 松伏町 36 八潮市 【茨城県】 37 阿見町 【千葉県】 38 成田市 39 四街道市 40 市原市	【新潟県】 41 湯沢市 【長野県】 42 飯山市 43 東御市 44 塩尻市 45 茅野町 46 箕輪町 47 泰阜村 【山梨県】 48 甲府市 49 山梨市 50 韮崎市 51 南アルプス市 【富山県】 52 上市町 53 富山市 【石川県】 54 内灘町 55 金沢市 56 野々市町 【福井県】 57 大野市	【滋賀県】 71 米原市 72 大津市 【京都府】 73 亀岡市 【大阪府】 74 枚方市 【和歌山県】 75 紀美野町 76 有田川町 77 すさみ町
東北	中国・四国	九州・沖縄	
【青森県】 9 階上町 【岩手県】 10 軽米町 11 葛巻町 12 金ヶ崎町 13 大船渡町 【秋田県】 14 秋田市 【宮城県】 15 大崎市 16 七ヶ浜町 【山形県】 17 天童市 18 朝日町 【福島県】 19 南相馬市 20 富岡町 21 三島市 22 昭和村 23 須賀川町	【鳥取県】 78 日南市 【島根県】 79 松江市 80 益田市 【岡山県】 81 新見市 82 総社市 83 井原市 84 浅口市 85 里庄市 【広島県】 86 東広島市 【愛媛県】 87 新居浜市	【福岡県】 88 芦屋町 89 岡垣町 90 須恵町 91 宇美町 92 筑後市 93 柳川市 【佐賀県】 94 多久市 95 武雄市 【長崎県】 96 佐世保市 97 平戸市 【鹿児島県】 98 湧水町 99 霧島市 100 志布志市 101 始良町 102 薩摩川内市 103 鹿児島市 104 奄美市 105 知名町	【沖縄県】 106 那覇市



北日本生涯学習まちづくりフォーラム
(2009.11.28~29 北海道本別町)

協働・参画による
生涯学習まちづくり INかるまい
(2010.2.5~7 岩手県軽米町)

生涯教育宣言30周年記念大会
(2009.10.24~25 岩手県金ヶ崎町)

天童市生涯学習フェスティバル2009
(2009.9.13~11.21 山形県天童市)

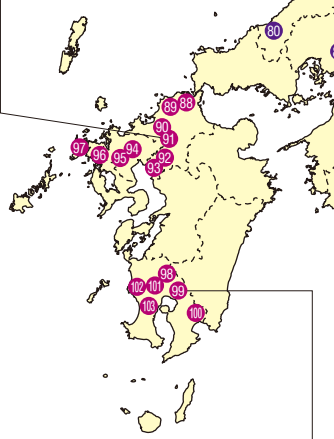
平成21年度 須賀川市民大学講座
(2009.9.16~10.21 福島県須賀川市)

東日本生涯学習まちづくりフォーラム
(2008.2.17~18 栃木県佐野市)

かすかば遊学フェスティバル2009
(2009.10.1~12.31 埼玉県春日部市)

第21回全国生涯学習フェスティバル
まなびピア埼玉2009 IN 松伏町事業
(2009.11.1 埼玉県松伏町)

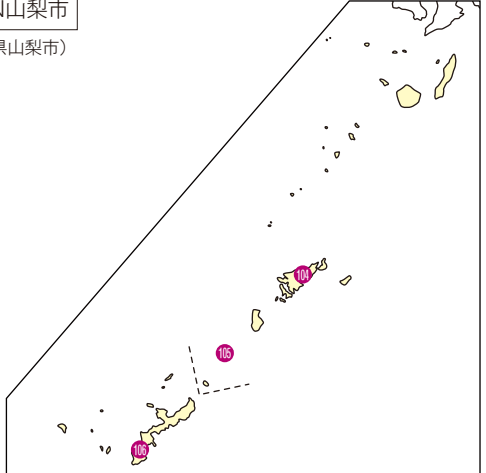
第1回ふみの里まなびの森フェスタ
(2009.11.23 福岡県宇美町)



南日本生涯学習シンポジウム
(2007.2.21~22 鹿児島県霧島市)

子どもをほめて育てる研究会IN山梨市
(2009.11.23 山梨県山梨市)

西日本生涯学習シンポジウム
(2009.2.7~8 広島県東広島市)



募集

平成22年度

補助事業・研修会実施市町村の募集について

協議会では、毎年会員市町村において開催される生涯学習の推進に係る研修会等を援助する目的で、「全国生涯学習市町村協議会研修会等補助金交付要綱」に基づき、運営補助金交付を受ける市町村を募集しています。

平成21年度につきましても、多くの会員市町村にご応募いただき、補助金制度をご利用いただきました。実施各市町のそれぞれの取り組み状況につきましては、その概要を掲載させていただきました。

協議会といたしましては、この補助金制度を会員市町村にさらに有効にご活用していただきたいと考え、平成22年度におきましても、同程度の募集をする予定です。7月初旬の総会後に募集を開始し、その後決定させていただく流れになります。

つきましては、補助金交付を希望される会員市町村におきましては、協議会ホームページより募集要項をダウンロードしていただき、事務局まで申請してい

ただくようお願いいたします。

なお、申し込み多数の場合などにつきましては、十分に検討させていただき選考・決定をさせていただくことになりま

すので、あらかじめご承知おきください。ご不明な点などございましたら、事務局までお問い合わせください。



紹介 全国生涯学習市町村協議会のホームページ



アドレス

<http://www.gakushu.jp>

全国生涯学習市町村協議会では、ホームページを作成しています。

現在、このホームページには、「加盟市町村名簿」「会則」「補助金要綱」のほか、「各市町村の状況」「お知らせ」等の記事を掲載しております。

当協議会のネットワークを通して、全国各地での取り組み状況や日頃のご担当の皆さんが苦慮されていることも含め、様々な情報を集め、会員市町村の皆様がよりよいまちづくりに貢献できるよう、ご活用いただけたら幸いです。

また、「ぜひ、この情報を掲載して欲しい!」とのご要望がありましたら、事務局までご連絡ください。このPRが、明日への発信・発展につながっていくかも知れません。

編集室から

平成21年7月の総会後に、事務局を担当する事になりました。それから、ドタバタの連続で皆様には大変にご迷惑をおかけしてしまいました。

会費の請求、研修会等補助金の交付の手続きや「まちづくりフォーラム」など、慣れない仕事ばかりでしたが、何とかこなすことができました。これもひとえに会員市町村の皆さんの温かいご支援の賜物と存じます。何回となく全国の会員市町村さんからいただいた事務連絡やお問い合わせに対して、回答や手続きが遅れてしまったり、十分な返事が出来なかつたりと、不慣れとはいえ大変にご迷惑をおかけしたことをこの紙面をお借りしまして深くお詫びいたします。

これからの残り一年間の事務局の仕事をつつがなく終了できますことを深く祈念しております。それには全国の会員市町村の皆様のお力を拝借しなくてはなりません。また、この協議会を盛り立てていきますように、今後ともますますのご協力とご支援をよろしくお願いいたします。

(S)